

牛久：学校周辺に見る自然

第26号 みずべ公園（ひたち野うしく小）ほか

2020年2月19日発行

＜ 冬のみずべ公園 ～④カマキリの卵のうを探そう！ ＞

今回は、カマキリの卵のうを探してみましょう。



集合場所のユキヤナギは、開花が近いのでしよう。冬芽がだいぶふくらんでいました。その枝をよく見ると、ハラビロカマキリの卵のうが付いています。ぱっと見て、2つありました。ユキヤナギのように低くてモシヤモシヤとした木には、オオカマキリやチョウセンカマキリもよく卵を産みつけますから、校庭や他の公園などでも探してみましょう。

ユキヤナギの枝に付いていた、ハラビロカマキリの卵のう。どこだか分かりますか？



イヌシデ（左）、アキグミの枝（中）、それにあずま屋の石の柱（右）にも付いていました。

ハラビロカマキリは主に木の上で生活しますので、卵のうも木の枝に付いていることが多いのですが、幹や時には柱などに付いていることもあります。それを、コゲラやシジュウカラなどの鳥が見つけて、食べられてしまうこともあります。冬はエサも少ないので、みんな必死です。



ハラビロカマキリの卵のうを食べるコゲラ（左）と、シジュウカラ（右：2019.03.14 筑波実験植物園）。

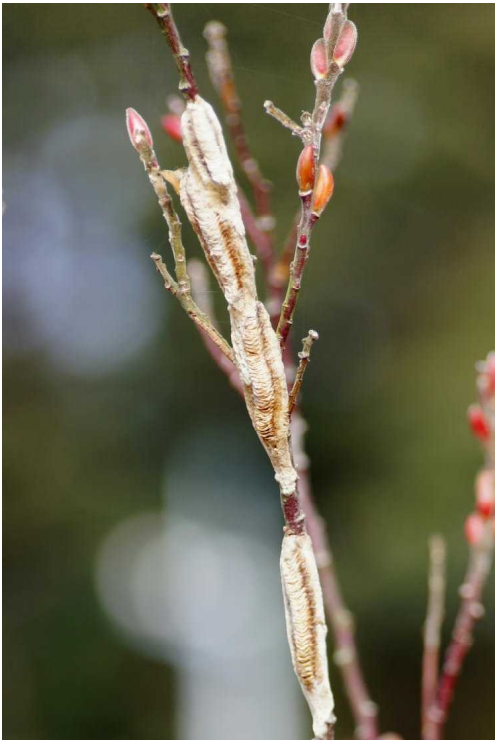


イヌツゲの枝に付いていた、オオカマキリの卵のう。どこでしょう？



次は、オオカマキリの卵のう。イヌツゲの枝に付いていたのを、よくぞ見つけてくれましたね。おかげで、みんなで観察できました。オオカマキリは、セイタカアワダチソウやススキなど、背の高い草の茎にもよく産みつけます。みずべ公園で少なくなってきたのは、なぜでしょう？

ハギ(左:2019.4.15) やササ(右:2.7牛久自然観察の森)、セイタカアワダチソウなどにもよく産みます。



今回の観察で見つかったのはこの2種類だけでしたが、市内では他に、チョウセンカマキリとコカマキリの卵のうもよく見つかります。チョウセンカマキリの卵のうはだいたいオオカマキリと同じような場所で見つかりますが、くらべると、やや広い開けたところに多い気がします。

コカマキリの卵のうは他とは違って、壁や石、木などの地面に近いところで見つかります。

カマキリの卵のうは、発泡スチロールのようにかたまった泡の中にオオカマキリなら200～300個の卵が入っているそうです。スポンジのように空気をたくさん含み断熱効果も高く、外からの衝撃にも強くできています。それでも、鳥に見つかりと食べられてしまうのです。【理科支援員：宮内】

ヤナギの枝にチョウセンカマキリの卵のう(左:1.10牛久市観光アヤメ園)。プランター(下左:2014.1.28ひたち野うしく小)と、地面に近い壁のコカマキリ卵のう(下右:2018.11.30牛久自然観察の森)。

